

資料 各教科の目標の実現を図る言語活動を取り入れた指導事例

指導事例1 国語 客観的・分析的に読み進める

第3学年「故郷」魯迅

【単元の構成について】

教科の特性として学習活動全体が言語活動であるため、全ての単元において、単元全体にわたって言語活動が位置付けられる。単元の目標を踏まえた上で、1単位時間ごとのねらいに即して、各要素を指導計画及び1単位時間の展開に効果的に配置していくことが望ましい。

文学的な文章の解釈においては、物語の細部を読み取る段階で、語句や描写に基づき、「要素Ⅰ」として読んで考える、グループで各自の考えを伝え合い検討する「要素Ⅱ」、話し合いを通して再び思考する「要素Ⅲ」を毎時間位置付ける。この学習を繰り返すことで読むための方法が身に付き、生徒が主体的に学習に取り組むことが期待される。主体性を重視する観点から、ノートを活用することが望ましいが、生徒の実態に応じてワークシートの活用も考えられる。ワークシートは、生徒の思考を促し自分の言葉で記述する構成にすること、ファイリングするなどその後の学習に活用できるように配慮することが必要である。

1 単元の目標

語句や表現、描写から登場人物の心情や作者の意図を読み取り、文章全体への理解を深め、自分のものの見方や考え方を豊かにすることができる。

2 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
語句や表現、描写から登場人物の心情や作者の意図を読み取ろうとしている。	① 描写に着目して読み、登場人物の心情や作者の意図を読み取っている。 ② 語句の効果的な使い方や表現上の工夫に着目して作品を読み深めている。	語句の意味や描写における表現の仕方を理解している。

3 単元の指導計画（全6時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1時	○学習目標を確認し学習の見通しをもつ。 ○全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 ○登場人物の人間関係や場面設定を確認する。	・内容について意見交換をする。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②
第2時（本時）	○冒頭部分を読み、風景についての現在の様子と「わたし」の思い出の世界との描写を比較し、心情をまとめる。	・描写から感じられることを根拠に人物の心情を考えることで分析的な読みを深める。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第3時	○30年前の「ルントウ」と現在の「ルントウ」の外見や内面を比較する。	・グループワークを通し、自分の考えと他の人の考えを比較し、共通点や相違点を考えることで客観的な読みにする。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第4時	○30年前の「ヤンおばさん」と現在の「ヤンおばさん」の外見や内面を比較する。	・グループワークでワークシートを基に、自分の考えを、しっかり伝えるようにする。	読む能力・①・② 言語についての知識・理解・技能
第5時	○再会した「わたし」と「ルントウ」の関係が昔と比べてどのように変わったか考える。 ○何が「ルントウ」を変えたのか、人物の描写から作者の意図を読み取る。	・聞いている側は、自分の考えと比べ、共通点や相違点について考える。 ・グループワークは4人程度で行う。 ※第5時の「わたし」と「ルントウ」の関係は書き換え作文から考える。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②
第6時	○「はっと胸を突かれた」というところの理由を考え、次の「世代」に対する願いを考える。 ○最後の情景描写から「わたし」の心境や願いを考える。	※第6時は、第2時から第5時までの留意点と同様とする。	関心・意欲・態度 読む能力・①・②

4 本時の学習（第2時）

<p>【本時における言語活動】 「要素Ⅰ 自己の思考」…語句や情景描写などについて、「描写の効果」と「そのように考える理由」を記述する。 「要素Ⅱ 伝え合い」…自己の思考で記述した内容を基に、グループで、各自の考えの共通点や相違点について意見を述べ合う。 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…話し合いを通して気付いたこと、修正点等を記述する。</p>
--

(1) ねらい

冒頭部分の風景が描写されている部分に着目して人物の心情の変化を読み取り、その後の展開を考える。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】（評価方法）									
導 入	1 小説における三つの描写を確認する。 2 本時の学習内容とめあてについて確認する。										
	冒頭の風景が描写されている部分に着目して人物の心情を読み取り、その後の展開を考えよう										
展 開	3 教科書をグループで読み、情景描写を確認する。 4 情景描写を抜き出し、そこから読み取れる人物の心情と理由について考える。 要素Ⅰ 自己の思考 ・情景描写とそこから読み取れる心情や理由について記述する。 〈考えるポイント〉 ① 抜き出した情景描写（何から） ② 読み取れる心情（どのように） ③ 読み取れる理由（なぜ・根拠） ▼ノートの記述例 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 100px;">家の様子</td> <td style="width: 100px;">故郷の眺め</td> <td style="width: 50px;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">様 現 在 の</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">こ と 読 み 取 れ る</td> </tr> </table> 要素Ⅱ 伝え合い ・人物の心情について自分の考えを4人グループで伝え合う。 <気付かせたいこと> ・同じ場面（言葉）でも、解釈によって多様な読み方ができる。 ・様々な読み方にふれることで、登場人物の気持ちを理解することができる。 5 「わたし」の気持ちは、20年前と現在ではどのように違うのかをまとめる。 要素Ⅲ 思考のまとめ ・ノートに、修正点や新たな考えを書き加える。	家の様子	故郷の眺め				様 現 在 の			こ と 読 み 取 れ る	◇グループで順番に音読する。 ◇読み終わったら冒頭にある情景描写に線を引く。 基盤：基本的事項の理解 ◇根拠に基づく説明をする。 ◇情景の描写の読みをする。 基盤：学習情報の獲得 ◇本文にある描写や文脈を捉える。 ◇次の2点について、机間指導を通して助言する。 ① 読み取れる心情は具体的に書く。 ② 理由については、どの部分からそう考えたのかを言及する。 [評価] ⇒ 既習の学習内容を活用しながら、考えをまとめている。 【関心・意欲・態度】（ノート） ⇒ 理由を明らかにしながら、読み取った心情についてまとめている。 【読む能力①】（ノート） 基盤：基本的事項の理解 ◇相手を意識した話し方・聞き方をする。 [評価] ⇒ 理由を明らかにしながら、読み取った心情について伝え合っている。 【読む能力①】（話し合いの様子） 基盤：学習情報の獲得 ◇友達の意見を取り入れながら、自分のノートにまとめる。 [評価] ⇒ 伝え合いを通して、読み取れる心情を見直し、修正したり加えたりしている。 【読む能力①】（ノート）
家の様子	故郷の眺め										
		様 現 在 の									
		こ と 読 み 取 れ る									
ま め	6 学習を振り返る。 学習の目標を達成できたかどうか、振り返る。										

【活用のポイント】

例)「批評」という言語活動を設定することで文章全体の理解を深め、ねらいの実現を目指す。
 作品を適切に批評するためには、文章を客観的・分析的に読み深めることが大切である。そのために、語句や描写などについて、その意味や効果を評価しながら読むことが有効である。例えば、情景や人物の描写が作り上げる効果について考えた上で、それらについて自分の意見をもたせる活動を設定する。